

第6巻 第3号 2016年8月15日発行 (隔月1回15日発行)

ISSN2185-7911

隔月刊 訪問リハビリテーション

> OT

6-03

2016年8・9月号

特集

> PT

> ST

# 症例別 呼吸・摂食・嚥下の 訪問リハビリテーション

## Homecare Rehabilitation

### 連載

ありがとう評価

インタビュー

訪問時の不測の事態への対応

これだけは知っておきたい関連法規

症例報告

施設紹介



株式会社gene



## 株式会社ユニバーサル山形 在宅リハビリ看護ステーションつばさ

株式会社ユニバーサル山形 在宅リハビリ看護ステーションつばさ 主任/理学療法士 榎本 敏明\*

### 1. はじめに

山形県は庄内・最上・村山・置賜の4つの地域に分けられ、当事業所は村山地域の山形市を中心に訪問しております[図1]。

村山地域は蔵王連峰や月山、大朝日岳に囲まれた盆地で、1933(昭和8)年に山形市で観測された気温40.8度は、2007(平成19)年に抜かれるまで74年間日本最高記録を保持していたほど夏は暑くなります。冬になると氷点下10度前後まで下がることがあり、寒暖の差が激しく春と秋が短い印象があります。各市町村に温泉を有し、春はさく

らんぼ、夏は花笠まつり、秋はラ・フランスや芋煮、冬は蔵王の樹氷など四季折々の楽しみがあります。

2015年国勢調査によると、山形県の総人口は1,122,957人で、そのうち村山地域には約半数の550,445人が居住しています。

### 2. 訪問エリアと地域性

当事業所の訪問エリアは、山形市・上山市・山辺町・中山町です[表1]。山形県の高齢化率は全国第6位で、老年人口は約30%になります。

山形県の地域性として、「3世帯同居率」や「一般世帯の平均人員」が全国第1位で、利用者を見守る家族のマンパワーは他県よりも多いと思われる。しかし、世帯人員が多いことで、家族内の人間関係といった家庭内問題も多く、サービス提供側としてのやりにくさを感じることも多いです。また、スタッフのことを家族のようにもてなす家庭が多いため、スタッフの変更や複数担当制が積極的に進められない傾向があります。訪問前後にはお茶のみの時間を取る家庭も多く、お茶をいただかなかったことで苦情になる場合もあります。

山形県は訪問看護ステーションからのリハビリ



[図1] 村山地域

\*株式会社ユニバーサル山形  
在宅リハビリ看護ステーションつばさ  
(〒990-2324 山形県山形市青田南6-13)

保険者	総人口 (人)	老年人口 割合 (%)	要介護 認定者数 (人)
山形市	252,453	26.5	12,086
上山市	31,584	34.3	2,284
山辺町	14,372	30.2	886
中山町	11,366	30.6	696

[表1] 訪問エリアの人口

テーションが多数を占めています。当事業所のエリアには、山形市14事業所・上市市2事業所・山辺町1事業所がありますが、在籍しているリハビリテーション専門職はまだ少ない現状です。

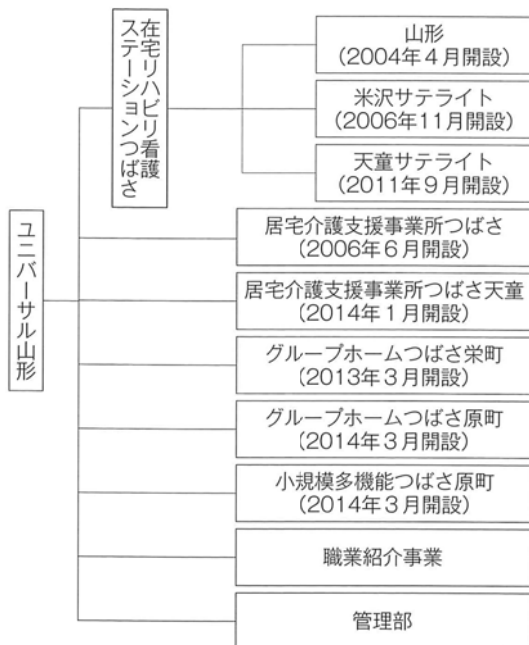
### 3. 法人・事業所紹介[写真1][図2]

#### 1) 法人の取り組み

2003年8月に法人設立し、「人間関係が良好で、働きやすい職場づくり」を最も重要視して取り組んできました。また、子育てや仕事と家庭の両立支援にも力を入れ、安定した雇用が質の高いサービス提供につながるものと考えています。実際に



[写真1] スタッフ



[図2] 組織図

は子の看護休暇の有給化、男性職員向けの配偶者出産休暇制度を導入しています。産休・育休後などの復帰する際には、短時間勤務正職員制度を利用するスタッフもいます。このような取り組みが、「子育てサポート企業くるみん認定」「山形県ワーク・ライフ・バランス優良企業知事表彰」「山形いきいき子育て応援企業優秀（ダイヤモンド）企業」として認められてきました。

#### 2) 事業所紹介

2004年4月の開設当初は看護師2名・准看護師1名・理学療法士5名・総務1名体制でした。開設当初はなかなか利用者が増えない厳しい時期もありましたが、徐々に利用者やスタッフも増え、米沢や天童にサテライトを開設することができました[表2]。

職種	山形	米沢	天童
看護師	7名	2名	6名
准看護師	1名	0名	0名
PT	8名	4名	5名
OT	7名	4名	6名
ST	1名	1名	0名
総務	1名	1名	1名
合計	25名	12名	18名

[表2] スタッフ数

当事業所は職種間の隔たりもなく、大変仲が良く、相談や連携のしやすい雰囲気があります。直行直帰を利用するスタッフも多く、利用者に関するスケジュール調整や連絡等は各スタッフが行っています。どのようにすれば移動の負担を減らし効率よく訪問できるか、どのタイミングでどのように連携を図るといいか、各スタッフの判断力や調整力、コミュニケーション能力などの成長を促し責任感を持たせます。

#### 3) 利用者の状況（サテライトを除く）

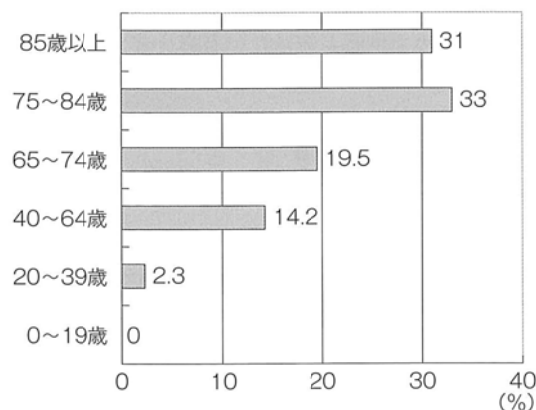
2016年3月の訪問延べ件数は、看護師が535件、リハビリテーションが1,398件でした。利用者数は303名（男性139名、女性164名）で、看護のみの利用が48名、看護とリハビリテーションの併用が42名、リハビリテーションのみの利用が213名と

なっています。

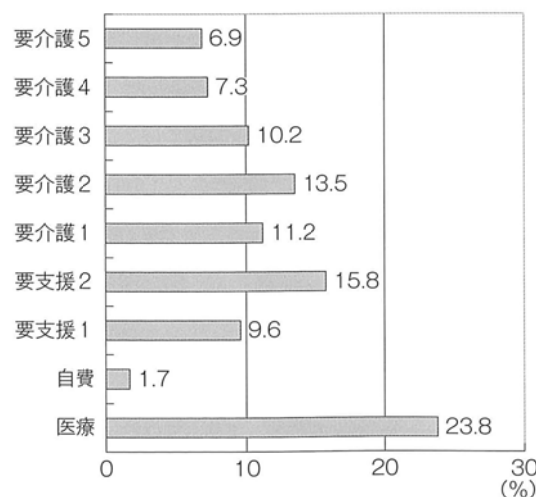
年齢別割合では、75歳以上が半分以上を占めております[図3]。徐々に小児や若年者の依頼が増加傾向にあります。

保険種別で見ると医療保険での利用が全体の約25%を占めています。さらに、介護度別と合わせると、要支援が約25%・要介護者が約50%となっています[図4]。自費は特定施設の入居者からの依頼が多いです。

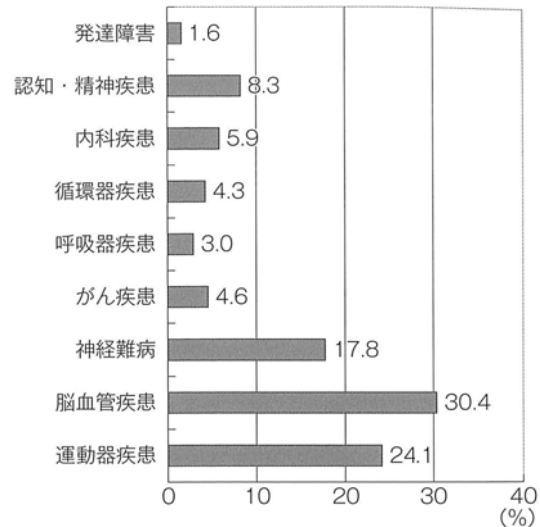
疾患別割合では、運動器疾患と脳血管疾患が大半を占めており、次いで神経難病となっています。神経難病は看護師とリハビリテーションの併用している割合が他疾患より高く、訪問回数も多い傾向にあります[図5]。



[図3] 年齢別割合



[図4] 保険種別・介護度別割合



[図5] 疾患別割合

スタッフの1日の平均移動距離は、約41kmで自家用車にて訪問しています。

2016年4月現在の、取り引き先居宅数は84事業所（包括・居宅・障がい児相談支援事業所など）、指示をいただいている主治医数は173名（総合病院など101名・個人クリニック72名）となっています。

#### 4. 新卒者の教育

開設から現在まで新卒者を山形5名、天童1名、米沢1名採用しております。入職時に担当指導者を決め、約2カ月程度は、さまざまな先輩スタッフの同行が中心です。看護師への同行や他事業所のデイサービス、訪問入浴等の見学も並行して行っています。成長の程度を見極めながら、担当指導者を定期的に変更したり、指導方法の検討をしたり、臨機応変に対応し、個々の性格や能力に合わせてより成長しやすい環境を与えられるよう配慮します。利用者を担当することになると何回かは主任も同行し、事務所に戻ってからフィードバックをこまめに行います。リハビリテーションの評価やプログラムで迷ったときは、動画や写真を撮ってきて症例検討を行います。新卒者を採用して思うことは、人間関係やコミュニケーション

能力といった人付き合いが最も重要で、知識の無さは時間の経過とともに努力でカバーできます。

## 5. 研修体制

---

各事務所ごとに月1～2回程度の勉強会を実施し、興味のある内容であれば他事務所にも行き来します。

2カ月に1回は外部講師を呼んで、3拠点合同の研修会も行っております。

その他、他県にある提携法人と合同で、年1回の研修会を実施します。学びやすい環境作りに配慮するとともに、横のつながりが増えるよう考えています。

## 6. 訪問リハビリ実務研修委員会

---

山形県理学療法士会・作業療法士会・言語聴覚士会で、訪問リハビリテーション実務研修委員会

を設置し、年1回の研修会を企画しています。米沢サテライト主任のST佐藤、天童サテライト主任のOT川田とともに委員会の事務局を担っています。まだまだ専門職の少ない分野ですが、地道に盛り上げていきたいと思っています。

## 7. おわりに

---

今回、このような機会を与えていただき、感謝を申し上げます。開設して12年が経ち、「継続」していくことの難しさを感じます。また、刻々と変化する社会情勢やニーズに「適応」していく重要性を感じます。

山形は自然豊かで、人間味溢れる土地です。いかにしてこの地域住民や利用者に充実した幸せな日々を感じていただけるか、我々にできることを考え、諦めず挑戦し続けたいと考えます。